

2020 公認野球規則改正項目について

2020 公認野球規則が改正になりました。

5.05 打者が走者となる場合

(a) 次の場合、打者は走者となる。

(4) 野手（投手を除く）を通過したか、または野手（投手を含む）に触れたフェアボールが、フェア地域で審判員または走者に触れた場合。（走者については、6.01a11 参照）。

(b) (2) 打者が打とうとしなかった投球に触れた場合。

【原注】投球が打者の身に着けているネックレス、プレスレットなどの装身具にだけ触れた場合には、その打者が投球に触れたものとはみなさない。

5.06 走者

この項では、球審の身体に挟まった場合が追加されました。

(b) 進塁

(4) 次の場合、各走者（打者走者を含む）は、アウトにされる恐れなく進塁することができる。

(i) 四球目、三振目の投球が、捕手のマスクまたは用具、あるいは球審の身体やマスクまたは用具に挟まって止まった場合、1 個の塁が与えられる。

(c) ボールデッド

次の場合にはボールデッドとなり、走者は 1 個の進塁が許されるか、または帰塁する。その間に走者はアウトにされることはない。

(7) 投球が、捕手のマスクまたは用具、あるいは球審の身体やマスクまたは用具に挟まって止まった場合 各走者は進む。

5.07 投球に関連する規則の変更

(a) 正規の投球姿勢

(1) ワインドアップポジション

投手は、打者に面して立ち、その軸足は投手板に触れて置き、他の足の置き場所には制限がない。

この姿勢から、投手は、

① 打者への投球動作を起こしたならば、中断したり、変更したりしないで、その投球を完了しなければならない。

(2) セットポジション

投手は、打者に面して立ち、軸足を投手板に触れ、他の足を投手板の前方に置き、ボールを両手で身体の前方で保持して、完全に動作を静止したとき、セットポジションをとったとみなされる。

この姿勢から、投手は、

① 打者に投球しても、塁に送球しても、軸足を投手板の後方（後方に限る。）に、外してもよい。

② 打者への投球動作を起こしたならば、中断したり、変更したりしないで、その投球を完了しなければならない。

【注2】(1)(2)項でいう“中断”とは投手が投球動作を起こしてから途中でやめてしまったり、投球動作中に一時停止したりすることであり、“変更”とは、ワインドアップポジションからセットポジション（またはその逆）に移行したり、投球動作から塁への送球（けん制）動作に変更することである。

(d) 塁に送球

投手が、準備動作を起こしてからでも、打者への投球動作を起こすまでなら、いつでも塁に送球することができるが、それに先立って、送球しようとする塁の方向へ、直接踏み出すことが必要である。

5.09 アウト

(b) 走者アウト

次の場合、走者はアウトとなる。

(7) 走者が、フェアボールに、フェア地域で触れた場合。

この際はボールデッドとなり、打者が走者となったため次塁への進塁が許された走者のほかは、得点することも、進塁することも認められない（5.06c6、6.01a11 参照）。

【注2】① 塁に触れて反転したフェアボールに、走者がフェア地域で触れた場合、その走者はアウトになり、ボールデッドとなる。

② 項は削除されました。

5.10 プレーヤーの交代

この項の改正は、採用しません。

6.02 投手の反則行為

(a) ボーク

塁に走者がいるときは、次の場合ボークとなる。

(1) 投手板に触れている投手が 5.07(a)(1)および(2)項に定める投球動作に違反した場合。

帰塁に関する処置 補則『ボールデッドの際の走者の帰塁に関する処置』

(I) 投手の投球当時に占有していた塁に帰らせる場合。

(e) 打球を守備しようとする野手を妨げた場合。

(2) フェアボールが、内野手（投手を含む）に触れる前に、フェア地域で走者または審判員に触れた場合。または、フェアボールが、内野手（投手を除く）を通過する前に、フェア地域で審判員に触れた場合（5.05b4、5.06c6、5.09b7、6.01a11）。

その他

9.00 記録に関する項目は、省略しました。

2020年競技者必携修正箇所一覧

北区軟式野球連盟に関係する項目だけを概略掲載しました。

1) テンポの良いゲームを展開しましょう。

スピーディに試合を展開するために

1) チーム

- ① 攻守交代は、駆け足でスピーディに行うこと。(コーチも励行する)
- ② 日程・時間に余裕がある場合でもスピーディな試合進行を意識する。
- ③ ペンチ前の整列は、出過ぎないこと。プレイのコールを待たせないこと。

2) 投手

- ① 遅延行為とみなされる投手の牽制球はやめさせる。
- ② 投手の基本的なルールを徹底させる。
- ③ 投手は、ロジンバッグを指先だけで使用し、丁寧に扱うこと。
- ④ 捕手から返球を受けた投手は、速やかに投手板に着き投球動作に入ること。

3) 捕手

- ① 返球したり声をかけるためにホームプレートの前や横に出過ぎないこと。
- ② サインについて、複雑なものは無くし、速やかに出すよう要請する。
- ③ 行動を機敏にさせる。

速やかなサイン・用具の脱着・バックアップや打合せの後速やかに守備位置に戻る。

4) 打者

- ① 攻撃側の第一打者・次打者を所定の位置に速やかに着くよう喚起する。
- ② 打者はみだりに打者席を外さないこと。(サインは必ず打者席内で見る)
- ③ 次打者席では、投球を注視すること。

5) 野手

- ① 内野手が投手に返球するときは、定位置で返球すること。
マウンドまで持って行かせない。このような行動は即注意し徹底させること。
- ② 内野手がアドバイスなどでマウンドへ近づかないよう注意すること。
(タイムの回数制限に注意)
- ③ タイムを掛けスパイクの紐の結び直しは認めない。

6) 審判員

- ① グラウンド内の移動は、常に走ること。
- ② 代打・代走の通告は、氏名とともに背番号を放送席に見せて告げること。
交代選手は都度メンバー表で確認すること。
- ③ 45フィート前進後、捕手よりも戻りを早くし、待機すること。
- ④ ストライクを見極め、ゾーンが小さくならないこと。
- ⑤ 節度・キレある判定・コールを実践すること。
- ⑥ ボールデッドのときの時間を早くすることを意識すること。

2) 挨拶は、試合前後にホームプレートを挟んで球審の合図で行うそれだけで、すべての挨拶が完了します。投手が球審等から交換用のボールを受け取る時など、タイム

の時に監督が球審等に帽子を取る等々の挨拶は不要ということです。

また、試合に敬意を表し連盟部員も起立し挨拶をする。

- 3) 試合のスピード化をはかることが目的の改正で、投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受けた後、走者がいない場合には 12 秒以内、走者がいる場合は 20 秒以内に投球しなければならなくなりました。

なお、違反した場合、走者が塁にいない場合はただちにボールを宣告し、走者がいる場合は警告を発することとし、同一投手が 2 度繰り返したら、3 度目からはその都度ボールを宣告することになりました。

これだけの時間、ボールを保持していても良いということではありませんので、注意してください。

- 4) レッグガードとエルボーガードを外す時のタイムについて

打者が二塁打を打ち、打者用手袋から走塁用手袋に変えるためにタイムをかける行為を禁止していますが、レッグガードとエルボーガードを外すときのタイムは認めるが、速やかに行うことと改正されました。

- 5) 臨時代走になれる選手は、前位の者で投手を除いた選手となりました。